

# 関東地方整備局管内 工事事故事例 【令和元年度 12月期】



関東地方整備局  
企画部 技術調査課

## ■工事事故発生状況

令和元年12月期(12/1~31)までに、関東地方整備局発注工事において**1件**の工事事故が発生。

	12月発生件数	累計件数
令和元年度 (暫定値)	1 件	37 件
平成30年度	6 件	43 件

本資料においては、発生した事故の一部の事例について、発生事象や発生原因、本来とるべきと考えられた行動、事故を受けて立案された再発防止策等を紹介しています。

# 令和元年12月期 工事事故発生事例

## 【事故事例①】 伐採作業中に用地境界外からのかかり木が倒れ作業員に直撃し死亡

工事種別	一般土木工事	事故発生日	令和元年12月18日	気象条件	晴れ
------	--------	-------	------------	------	----

### ■事故概要

労働災害 - その他

- ・ 被災者はチェーンソーを使用し伐採作業を行っていたところ、用地境界外からのかかり木（伐採した木とは別の木）が倒れ、被災者に直撃し、倒れてきた木と地面の間に挟まり死亡した。
- ・ 作業途中で伐採補助者（監視員）は、他の伐採準備作業支援のため配置場所を移動しており、被災者一人の状態での伐採作業を行っていた。

### ■事故発生状況

事故発生状況



事故発生状況



# 令和元年12月期 工事事故発生事例

## 【事故事例①】 伐採作業中に用地境界外からのかかり木が倒れ作業員に直撃し死亡

### 発生要因

#### ➤ 周囲の確認不足

伐採作業前において、用地境界外周辺の立木状況やかかり木の有無等、事前の調査や確認作業が不足していた。

#### ➤ 作業手順の遵守不足・記載不足

伐採作業者と伐採補助者（監視員）を配置し伐採作業を行っていたが、事故時の作業では他の作業準備の支援を行うため監視員が現地を離れることになったが、互いの意思疎通が不十分となり、監視員が不在のまま、伐採作業を継続したため単独作業となっていた。また、作業手順書がかかり木の処理作業に対して、不明確であった。

#### ◆本来ならば・・・

- ・事前にかかり木の有無について周囲の確認を徹底するべきであった。
- ・作業手順書に定められた監視員を配置するとともに、作業手順書を遵守徹底するべきであった。

↳ 関係法令等：土木工事安全施工技術指針 第3章 第2節 架空線等上空施設一般  
土木工事安全施工技術指針 第2章 第10節 現場管理  
土木工事安全施工技術指針 第2章 第4節 監視員、誘導員の配置

### 再発防止策

#### ➤ 周囲の確認の徹底

伐採作業当日の作業開始前に元請職員と伐採作業従事者全員で、チェックリストを用いて現地確認を行う。職長が作業順序、人員配置を決定し単独作業とならないよう全員に周知する。また、用地境界外において、倒木や腐朽枝落下等の周辺状況の確認を元請職員、職長および伐採従事者にて行う。

#### ➤ 作業手順の遵守徹底

伐採作業中は必ず監視員を配置し、伐採作業員の上空及び周辺の安全確認を行う。異常を発見した場合は監視員がホイッスルにて伐採作業員に知らせ、安全な場所へ退避させる。